

神奈川山梨教会連合会 「連合会だより」

NO2 02.4.1.

「先代教会長から教えて頂いた事」

☆マサ子先生は、先代(横須賀教会長)の紀念先生と結婚されるまで金光教という宗教の存在も知らなかったということですが、それからいきなり教会長婦人として御用されるのは大変だったでしょうね。

「はい。自分は何もわからないまま、ご縁を頂いた横須賀教会で教会長婦人とならせて頂くことになりました。初めのころは、ご修行々々と言われて何でわざわざ修行をしなければならなかったのか、また主人である先代先生に怒られると、なんと金光教の先生は威張っていられるか、などと思いい、今では恥ずかしいことでありました。」

☆そんな中でマサ子先生の『信心の師匠』とされた方はいらっしゃいますか？

「そうですね。やはり先代教会長が私

にとつての師匠であり、親先生でもあり、主人でもありました。敢えて先生と呼びせて頂きます。先生は何事にも厳しく、又優しく思いやりのある方でした。先生ご自身、若い頃には厳しく激しい修行をなされ、晩年になりましたから身体や言葉が思うようにならなくなりましたが、そんな中でもよく何かと教えて下さいました。

川でスベって山でコロんで...とってきました

interview

第1回 木本マサ子 先生(横須賀教会)



ある時は私の夢の中に
出てこられて教えてくださ
ったことがありました。
—玉串はなあ、お供えす
ればよいだけではない。心をこめてお供
えするのですよ。—と言われ、ハイと答
えたら一分かったのかな。—と言われま
した。夢にでも教えてくださって、あり
がとうございますとお礼申しました。こ
れは亡くなる十日前くらいのことでした。」

☆先代先生の深い思いが感じられますね。他にどんな御教えを頂かれたのですか？

「たくさんのお事を教えて頂きました。その中からいくつかあげさせて頂きますと—

〈信心は理屈ではない、素直でなければならぬ〉

〈何事も信心で：それが大切である〉

〈親を大切にす。『親、親たらずとも、子、子たるべし』親の思いを受け、何事も神様にお願ひさせて頂き、受け取らせて頂くこと』などです。

それぞれにその時の話があるのですが長くなるので：—

☆マサ子先生、ありがとうございました。

先代先生にとってマサ子先生は9歳年下の妻で、厳しい中にも年の離れたマサ子先生を氣遣われていたことをとても感じました。今も、御用をされている姿を見守られているのではないでしょうか。 — 則—

『連合会だより』新名称募集に際しましては、多くのご応募ありがとうございました。只今選考中ですので、次号を楽しみにお待ちください。

【各 部 会 報 告】

布教部

横山光雄

三月二日神奈川教会にて「女性のつどい」の(四月二十七日実施)企画会議が行われ、『韓国料理を作りながら・食べながら』という内容で、金光教東京寮在住の韓国人留学生を講師にお願いして、少しでも韓国の文化にふれようと計画が進められる事となった。

また、「親子集会」について実行委員会が開催され、昨年中止となった『そうだ：地引網しよう』を二宮・梅沢海岸で六月十六日・十時三十分より行う事で計画された。

総務部

南清孝

三月九日(土)午後五時より、神奈川教会において十名が出席して、第二回事業企画運営委員会を開催した。その中で、神奈川山梨布教十年奉祝事業について本本連合会長より、事業構想及び事業内容について報告を受け、協議検討した。

まず、平成十四年(神奈川県布教十年)、平成十五年(教祖百二十年)、平成十六年(山梨県布教十年)の三年間を奉祝期間と押さえ、事業を推進する。

平成十四年度上半期は、準備委員会の設置。布教百十年祈願詞の起草と奉唱運動の展開。下半期は、実行委員会の設置。平成十五年度は、教祖百二十年本部主催記念講演会と連合会自主企画集会の実施。平成十六年は、お祭り広場(仮称)の開催。(連合会イベントと

自主企画イベントの実施)ねらいは、奉祝の喜びを現わす・親睦交流を深める・人材の発掘・布教を目指す。

以上の構想に立って、奉祝事業を推進することとなった。そして事業企画運営委員会のメンバーをもって、準備委員会を組織し、京都府連が開催した「京都ふれあい祭り」のビデオを鑑賞した。

信徒部

吉田章一郎

二月二日(土)午後二時より鶴見教会にて信徒部会が参加十七名で行われた。本年最初として、これからの信徒活動についての意見交換に、新年会を併せて開いた。その中で、教会連合会の組織と信徒部の位置付けについて説明の後、以下の意見・指摘があった。

教師と一体となつての積極的な取り組み、信徒部の目的や動きが一般信徒に浸透していない、リーダーシップが取れていない、若い人や一般の人も集まれる魅力ある内容作り、企画部の事業を活かしての人材の発掘、一つの教会ではできないことを各教会から汲み上げて実施する、小さくても良いから仲間作りを…などである。

これらを受けて本年は、「金光教を考える会」三年間のまとめを行い、明年からの実践を主体とした《ポスト考える会》の企画・実施。また「講話と夕食の会」を実施し、これらを通して奉祝行事『お祭り広場』への信徒の結集、そしてネットワーク作りを図っていく。

お小遣いのあげ方

皆さんは子供にどのようにしてお小遣いをあげていますか？

あるところで『アルタイル王国』という少し変わったキャンプがあるという話を聞きまし。それは小四から中二までの子供達が、その国だけで通用するお金をつくり、それを使って、その国民として夏の二週間を過ごすというものでした。

子供達は、キャンプの一ヶ月前から班をつくって仕事を与えられます。そこで得た給料がキャンプで支給され、子供達は期間中、もらったお金を自由に使って自由に生活するのです。

そして、途中でお金を使いきってしまった子供は、収入を得るためにアルバイトをします。仕事が見つかからない子供のために「ハローワーク」があったり、生活保護(中学生が担当)まであります。お金を稼いだら税金を納めるシステムもあり、更には脱税する子を見つけたマルサ(小六が担当)まであるとのことでした。

子供たちはこの中で大人と同様の体験をし、生活の基本である「収入と支出」の意味を理解していくのです。

さて実際の生活の場ではどうでしょう？子供たちの多くは働かず(お手伝いをせず)に月々決まったお小遣いをもらっていて、基本のひとつである「収入」がおかしな事になってはいませんか？

お小遣いのあげ方、ちょっと考えてみませんか？

— 恵 —

沖縄遺骨収集奉仕団

に参加して

甲府教会 牧野真幸

沖縄戦終焉の地摩文仁丘陵に、九時過ぎばつて始まった作業は、休憩の時間もなく黙々と続けられた。片手に鎌、片手に熊手を持って、南国の樹木がうっそうと生い茂る急な斜面を丹念に掘り進んでいった。慣れない身にはきつい作業だ。踏ん張っている足がきりきり痛む。

しかし、どれほど多くの方が、この「ゴツゴツと尖った珊瑚岩の上を裸足で逃げ惑ったことか。山容が変わったと言われるほど降り注いだ砲弾や火焰放射の中で、次々に倒れていった人たちの苦しみ、無念を思えば、これくらいのことでは音をあけてはならないと自分に言い聞かせた。終戦から五十七年。遺骨の収集は既に山を越し、二、三数年の収骨は自立して少なくなってきた。今年をもつていよいよ収束するというその最終日。作業の終了と慰霊祭の始まる時間が刻々と迫っていたその時。若い人たちのグループが、僅かな隙間から入り込んだ洞窟をロー

プで降りていくと、そこから何体もの完全遺骨が思いがけず出てきた。
おそらく、今掘り出してもらわねば、永遠に深い闇の中に葬られ忘れ去られてしまうと、渾身の叫びをもって御霊が私たちを呼んだのであろう。

摩文仁の丘国立墓苑―きれいに拭き清められた遺骨の前で、慰霊祭は仕えられ、各地から持ち寄った水を御霊に捧げた。この故郷の水が、今も慟哭している沖縄の大地に染み透り、亡き人の魂まで届くようにと祈りながら……

切々と奏上される祭詞に続いて、参加者全員による玉串奉奠。そして最後に皆で「ふるさと」を合唱した。涙がこみ上げてならなかった。見ると、皆泣きながら歌っていた。

朝から雨という予報にもかかわらずよくも天気もあって、午後五時過ぎ、全てが無事終了時スコールのような激しい雨が降り出したのも印象的だった。

それにしても、信仰と志を共にする者同士の交わりは、なんとよいものだろう。

得難い体験と素晴らしい出会いに、心から感謝せずにはいられない。二十六年もの長い間、全てに亘って実意丁寧に進められた沖縄遺骨収集奉仕活動は、まさに金光教の最も輝かしいプロジェクトであった。

ハワイの暮らし & 日本の暮らし

挨拶は暮らしの中に欠かせない大切なものであるが、日本で上手に出来る人でも所変ればこれが案外難しいものである。

目と目が合えば微笑み合い、近づけば「こんにちわ、ご機嫌いかが?」、別れる時には「良い一日を」。近所の人やお店の人、さらには通りすがりの人まで、老若男女関係なく陽気に声を掛け合うハワイである。

友人知人はたとえ毎週のように会っていても、会う度ギュッと握手を交し肩を叩いて互いの様子を尋ね合う。ましてや、久しぶりに会おうものなら所かまわず大騒ぎになる。

今時はよくわからないが、こうなるとよっぽど弾けないと日本人はつついタイミングをはずしたり、引いてしまって相手に気持ちを伝えそこなってしまうのが落ちた。それでも「まあ浩子、元気だった?会えて嬉しいわ」と手を取られ声を掛けられると、これが案外嬉しいもので、相手に親しみが湧くし自分が認められたような気がして、気持ちの良いものだったりするのだ。

日本に戻ってすぐの頃、デパートの店員の丁寧な挨拶に非常に感激したのだが、今は道行く人とすれ違う時、暑い太陽の下で気軽に声を掛け合うハワイの挨拶が懐かしく思えてならない。

一浩一

天地金乃神大祭 日程

一連合会よりお知らせ一

☆講話と夕食の会

【人生の達人たちとの出会い】

—ラジオ深夜 便を通して—

(元NHKアナウンサー高橋美紀子さんのお話と懇談。夕食会出席者は1500円)

4月20日(土) 15:00～ 鶴見教会

詳しくは教会でポスターをご参照ください。

☆【婦人のつどい】

—韓国料理を作って食べよう—

(簡単な料理を学びながら、韓国文化に触れましょう。子供連れでもOK)

4月27日(土) 11:00～神奈川教会 500円

詳しくは教会でチラシをご参照ください。

☆親子集会

【そうだ…地引網しよう】

(昨年実施できなかった地引網のリベンジ)

6月16日(日) 二宮・横浜海岸

ポスター・チラシを4月中旬頃配布します。

一東京センターよりお知らせ一

☆平和セミナー『イスラームを学ぶ』

講師 小林正樹氏

(東洋大学・白鴎大学非常勤講師)

4月13日(土) 14:00～ 東京センター

300円

☆お手伝いの方募集

三宅島島民ふれあい集会で、一緒にポップコーンを作ってください。簡単な作業ですから、どなたでもどうぞ

4月21日(日) 10:00～14:00

港区立芝浦小学校 JR田町駅徒歩5分

教会名	日 程	時 間
藤 沢	4月14日(日)	午後1時
併 開教 百年記念祭		
津 久 井	4月20日(土)	午後1時30分
横 浜 西	4月21日(日)	午後1時30分
甲 府	4月21日(日)	午後1時30分
鎌 倉	4月28日(日)	午後1時30分
登 戸	4月28日(日)	午後1時
大 明	4月28日(日)	午後1時30分
川 崎	4月29日(祝)	午後1時
武蔵小杉	4月29日(祝)	午前11時
横 須 賀	5月 3日(祝)	午後1時30分
子 安	5月 3日(祝)	午後1時30分
丸 子	5月 3日(祝)	午後1時
生 麦	5月 5日(祝)	午後1時
相 模 原	5月 5日(祝)	午後2時
平 塚	5月 7日(火)	午後1時
鶴 見	5月11日(土)	午後1時
さがみの	5月12日(日)	午後1時30分
大 磯	5月14日(火)	午後1時
野 毛	5月19日(日)	午後1時30分
神 奈 川	5月25日(土)	午後1時30分
小 田 原	5月26日(日)	午後2時

☆【平和へのメッセージ】募集

テーマ：「平和になること できること」

絵画、標語、写真、作文の各部門。

以上詳しくは東京センターまで TEL.03-3818-6321

FAX.03-3818-6323 メール tokyo@konkokyo.or.jp

心を鏡に映す

横須賀教会 木本紀義

「人間は自分一人では生きられない。当然の如く耳にする言葉なのですが、最近つくづく考えさせられます。夫婦、親子、友人、仕事仲間、総ての人間関係。人間は人と人とのつながりの中で生きています。そして、人と人とのつながりは、心と心の触れ合いでもありません。相手に直接語りかけずとも、自分の心の働きが相手に及ぼす影響は、計り知れないほど大きなものがあります。心の動きは同じ一つのものを見ても、人それぞれの見方となり働きとなって現れてきます。だからこそ、自らの心を鏡に映し、整えていく努力を日々心掛けていくのです。言葉遣いも現れる働きも、総て心が決めているからです。」

金光教神奈川 山梨教会連合会

発行者 木本紀義

編集責任者 横山光雄

横須賀市深田台三十二番地

金光教横須賀教会内